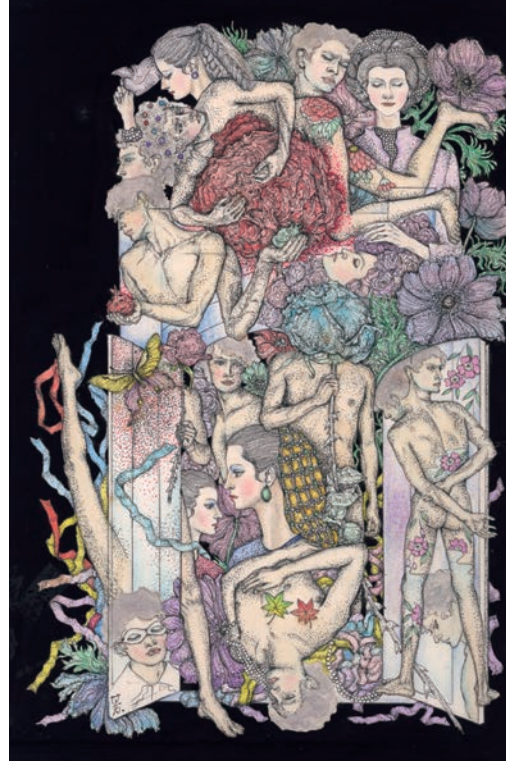




原田康子『魔園』カバー表紙原画



沼正三『家畜人ヤプー』(角川書店限定愛蔵版)挿絵原画



澁澤龍彦『暗黒のメルヘン』函表紙原画

おもな展示作品

小川和佑編『三島由紀夫少年詩』表紙原画(1991 冬樹社) 江戸川乱歩『柘榴』原画(『幻影城』口絵) 倉橋由美子『聖少女』表紙原画(1965 新潮社) 澁澤龍彦『暗黒のメルヘン』函表紙原画(1971 立風書房) 『曾野綾子選集』カバー表紙原画(1976 読賣新聞社) 多田智満子『四面道』装画原画(1975 思潮社) 立原正秋『血と砂』表紙原画(1972 文藝春秋) 堂本正樹『男色演劇史』表紙原画(1970 薔薇十字社) 中井英夫『殺人者の憩いの家』挿絵原画(1978 幻影城) 沼正三『家畜人ヤプー』表紙・挿絵原画(1970 都市出版社版) 『家畜人ヤプー』表紙・口絵・挿絵原画(1984 角川書店限定愛蔵版) 原田康子『挽歌』カバー表紙原画(1960 角川文庫) 『日影文吉未刊短篇集成』函表紙・見返し原画(1974 牧神社出版) 皆川博子『瀧夜叉』装画原画(1993 毎日新聞社) 三島由紀夫『豊饒の海』函表紙・裏表紙習作(1969 新潮社) 山田智彦『愛の終り』表紙・扉原画(1973 冬樹社) 『山村正夫自選戦慄ミステリー集』表紙原画(1989 新芸術社) 吉田知子『蒼穹と伽藍』表紙・扉・口絵原画(1974 角川書店) 吉行淳之介『暗室』文庫カバー原画(1973 講談社文庫) 連城三紀彦『戻り川心中』文庫カバー原画(1983 講談社文庫) 渡辺淳一『無景燈』文庫カバー原画(1974 角川文庫) ジャン・ジュネ『泥棒日記』文庫カバー表紙原画(1983 講談社) 『パイロン詩集』文庫カバー表紙原画(1971 新潮社) フローベール『ボヴァリー夫人』文庫カバー原画(1997 新潮社) 絵本『人魚姫』原画 映画『ルートヴィヒ 神々の黄昏』ポスター原画(1972) 映画『ランボー 地獄の季節』ポスター原画(1971) 他



アンデルセン『人魚姫』絵本原画



三島由紀夫『豊饒の海』函表紙習作

村上芳正は一九二二年、長崎市で生まれました。家庭の事情と経済的困難により中学校を中退。生活のため三菱長崎製鋼所で働かざるを得なくなり、一九四二年、召集され台湾へ出征。命から復員すると、原爆で破壊された故郷に直面することになりました。戦後は会社の人員整理によって、一九五一年、役者になる夢を抱き上京。しかし生活が成り立たず、子どもどころから得意だった絵で、路頭の似顔絵描きをこなし、『それいゆ』『ジュニアそれいゆ』でイラストの注文を受けるようになりました。村上芳正の絵は学校や師匠に学んだけではなく、全くの独学でした。タブローへの憧れもあり、一九五八年、三島由紀夫の知遇を得て、以後、三島の紹介で河野多恵子、吉行淳之介、倉橋由美子、ジャン・ジュネら、主に新潮社で本の装幀の仕事に請け負い、典雅で高踏的、豪奢なイメージを讀者に与えることに成功しました。一九七〇年代初頭、年は村上芳正にとって大きな出来事がありました。恩人でもあった三島由紀夫の『豊饒の海』を手掛け、そのうち三島が自衛隊に乱入し刺腹自殺を遂げたこと。もう一つは三島、澁澤龍彦が絶賛した沼正三『家畜人ヤプー』改訂増補限定版(都出版)の仕事です。いずれも村上芳正の代表作として広く知られるようになります。一九七〇年代以降は多田智満子、吉田知子、『パタイク全集』のほか、中間小説、ミステリーなどに活躍の場を求めます。曾野綾子、瀬戸内寂聴、日影文吉、赤江凛、とくに連城三紀彦『戻り川心中』に始まるシリーズは後期の代表作といえます。北海道出身の原田康子、渡辺淳一らにも作品を提供しています。村上芳正の絵は硬質細密な描線に際立った特徴があり、無数の点描が複雑な陰影をもたらします。美しくも体温を感じさせない陶器のような女性、肉体を苦痛に歪める裸体の青年像も繰り返し現れるモチーフです。その間隙を鋭い金属のような棘を持つ薔薇や芥子が埋めつくします。かつて三島由紀夫は次のように述べています。村上芳正氏の画業は、ひどく反時代的なもので、時代の流行にも一般の好向にも一切かまはず、ひたすら自分の個性を純粹に蒸溜し、自分の毒を精錬し、人知れぬ齟齬を織細正確に線の戯れに賭けた密室の作業である。かついふ画業こそ少数の理解者で、まじり立ってゆく必要があると思ふ。(『三島由紀夫 村上芳正』)

〒047-10031 小樽市色内1-9-5 電話 011-341-3212, 3388

市立小樽文学館